

区民の皆さまのご意見・ご要望を区政に活かします

～ 主要施策の成果 ～

区は、区民の皆さまからのご意見やご要望を幅広く伺うため、様々な意識調査等を実施しています。近年実施した調査では、「大田区多文化共生実態調査」「みどりを守り・つくり・育てるためのアンケート集計結果」等があります。

区は、区民の皆さまの意識やご要望を把握し、的確に施策へ反映することで、区民満足度の向上を図っています。

ここでは、調査結果の中から区民の皆さまのご要望の一部を紹介するとともに、それに関連する主な事業の平成21年度実施状況をお知らせします。

以下に記載する調査の結果（％で表記）は、調査ごとに対象・期間等が異なるため、設問をまたいで比較できるものではありません。各調査の概要は、P.18をご覧ください。

利用したい、足りていないと思う保育サービスは？

（「大田区地域保健福祉計画・次世代育成支援行動計画実態調査」より）

就学前児童の保護者が利用したい、足りていないと思う保育サービスは「認可保育所（国の基準で都の認可）」（35.5％）が最も高く、「幼稚園の預かり保育（延長保育）」（28.0％）、「病児・病後児保育」（25.3％）の順になっています。

関連する主な事業（P.13を参照）

- ・区立保育園の改築・改修の推進
- ・家庭福祉員制度の充実

希望する子育てサービスは？

（「大田区地域保健福祉計画・次世代育成支援行動計画実態調査」より）

小学生の保護者が希望する子育てサービスは、「児童手当や税金軽減など経済的援助」（71.5％）が最も高く、「安心な公園や乳幼児と活動しやすいまち」（52.7％）が続いています。次いで、「非行防止や環境浄化など健全育成対策」（40.2％）や、「仕事と子育てが両立しやすい環境整備」（39.6％）の順になっています。

関連する主な事業（P.13を参照）

- ・魅力ある公園のリニューアル
- ・女性の就労支援（再チャレンジ等）

60歳以上の高齢者の方が、今後やってみたいことは？

(「大田区地域保健福祉計画実態調査」より)

60歳以上の高齢者の方が今後やってみたいことは、「趣味活動」(47.9%)が最も高く、「健康づくり」(32.2%)、「スポーツや体を動かすこと」(30.9%)の順になっています。

関連する主な事業(P.14を参照)

- ・介護予防の促進
- ・さわやかサポート(地域包括支援センター)の拡充と福祉ネットワークの強化

区内の好きなみどりは？

(「みどりを守り・つくり・育てるためのアンケート集計結果」より)

区内の好きなみどりは、「水辺のみどり」(68.7%)が最も高く、次いで「社寺林などのみどり」(62.5%)が挙げられ、「公園のみどり」「豊かな自然のみどり」(50.8%)も5割を超えています。これに続き、「生き物とふれあえるみどり」(38.7%)、「住宅地のみどり」(28.5%)の順になっています。

関連する主な事業(P.14を参照)

- ・呑川緑道の整備
- ・海辺の散策路整備
- ・(仮称)大田区緑の10か年計画の策定(緑の基本計画改定)

今後増えて欲しい公園は？

(「みどりを守り・つくり・育てるためのアンケート集計結果」より)

今後増えて欲しい公園は、「子どもが楽しく遊べる公園」(57.8%)が最も高く、「樹木、芝生、池などが豊富な公園」(56.7%)もほぼ同水準で並んでいます。次いで「お年寄りが楽しく憩える公園」(45.2%)、「花などの名所として誇れる公園」(35.4%)の順になっています。

関連する主な事業(P.15を参照)

- ・公園の整備
- ・魅力ある公園のリニューアル(再掲)

全国から見た大田区の認知度は？

(「大田区の観光に関する意識調査」より)

全国レベルで見た大田区の認知度は、「東京23区のひとつ」(91.7%)が最も高く、「区内に羽田空港がある」(39.8%)、「中小企業が多いまち」(34.0%)、「蒲田行進曲の舞台になった場所」(31.7%)の順になっています。

関連する主な事業(P.15を参照)

- ・にぎわいを生み出すスポットづくり
- ・ものづくりのまち体験ツアーの実施
- ・シティセールスの実施

多文化共生のまちづくりのために区が力を入れるべきことは？

(「大田区多文化共生実態調査」より)

多文化共生のまちづくりのために区が力を入れるべきことは、「日本の文化や生活情報を多様な言語で知らせる」(日本人の区民 52.1%、外国人の区民 40.2%)、「日本人と外国人の交流会やイベントを開く」(日本人の区民 36.9%、外国人の区民 39.9%)、「外国人への偏見・差別をなくすための努力を行う」(日本人の区民 33.1%、外国人の区民 45.7%) が上位 3 項目となっています。

関連する主な事業 (P.16 を参照)

- ・(仮称) 多文化共生推進プランの策定・実施
- ・(仮称) 多文化共生推進センターの整備
- ・外国人のための日本語教室の充実
- ・日本語指導教室の充実
- ・身近な暮らし情報の発信

地域文化に関し、行政に対して期待する支援・役割は？

(「地域文化に関する区民・団体意識調査」より)

地域文化に関し、行政に対して期待する支援・役割は、「区内に存在する文化・芸術などの詳しい情報提供」(40.8%)、「区民が取り組んでいる文化・芸術活動などの情報提供」(40.7%) がほぼ同水準で高くなっており、次いで「練習場所や活動場所の確保」(24.3%)、「施設利用の簡素化(予約状況の確認方法や予約手続きの簡素化など)」の順になっています。

関連する主な事業 (P.17 を参照)

- ・馬込文士村資料の活用
- ・(仮称) 地域文化振興プランの策定・実施

地域活動を活発にするために必要な支援は？

(「大田区政に関する世論調査」より)

地域活動を活発にするために必要な支援は、「仲間づくりや活動への参加に役立つ情報の提供」(34.3%) が最も高く、次いで「活動費への助成」(28.6%)、「地域のイベントの開催など住民同士の交流のきっかけづくり」(27.4%)、「活動場所の提供や機材などの貸し出し」(22.8%) の順となっています。

関連する主な事業 (P.17 を参照)

- ・地域力応援基金助成事業
- ・NPO・区民活動フォーラムの開催
- ・協働推進講師派遣事業

関連する主な事業（平成 21 年度実施分）

事業名	内容	決算額（円）
区立保育園の改築・改修の推進	<p>鶺の木保育園の改築工事を行いました。（仮称）新鶺の木保育園については概要設計が、森が崎保育園・入新井保育園については実施設計が完了しました。中央五丁目の保育園建設予定地の擁壁設置工事の実施設計及び地盤調査を行いました。</p> <p>区立保育所建設時の面積要件の見直し等を踏まえた改築基本計画策定に向けて検討を行いました。</p>	241,817,322
家庭福祉員制度の充実	<p>自宅で 2 歳未満の乳児を対象に保育を実施する家庭福祉員（保育ママ）を認定（31 人）し、保育定数を拡大しました（利用児数延べ 881 人）。</p> <p>家庭福祉員に、運営費等の一部助成を実施しました。</p>	92,186,474
魅力ある公園のリニューアル	<p>公園のバリアフリー化を推進するため、萩中公園、平和の森公園、都堀公園、南六郷緑地、南六郷公園の設計を完了し、萩中公園、南六郷緑地、南六郷公園については工事を完了しました。本門寺公園に健康遊具を設置し、鶴渡公園、文化児童公園、観音通り児童公園、東嶺公園、鶺の木三丁目公園、西蒲田太平橋児童公園、西一中央児童公園、大森南四丁目公園の遊具改修を行いました。</p> <p>洗足池公園における桜樹木診断調査を完了しました。</p>	142,404,121
女性の就労支援（再チャレンジ等）	<p>女性の働く意欲と能力を活かして再就職や起業にチャレンジできるよう、働きたいママのための再チャレンジ応援ナビ、夢をカタチにするためのプチ起業家入門講座等を開催しました（参加者延べ 368 人）。</p> <p>ワークライフバランスについての講演会をエセナフォーラムで行いました（参加者 188 人）。</p> <p>働く女性のための相談を実施しました（相談件数 134 件）。</p>	1,258,440

事業名	内容	決算額（円）
介護予防の促進	<p>高齢者の介護予防を促進するため、アンケート調査(介護予防基本チェック)を実施しました(127,272件)。また、通所型介護予防教室(77教室、特定高齢者の参加者621人)の開催や、訪問型介護予防事業として個別訪問指導(19人)を行いました。</p> <p>元気な高齢者向けに20か所のさわやかサポートで介護予防教室(参加者延べ2,990人)本門寺公園等で公園体操(6回、参加者延べ281人)認知症予防教室(2日制2回、参加者延べ78人)いきいき脳トレーニング教室(16日制1回、10日制1回、参加者15人)認知症ファシリテーターフォローアップ講座(2日制1回、参加者延べ71人)認知症予防講演会(参加者456人)を開催しました。</p> <p>公園体操地域指導員養成講座(7回)を開催し、26人が登録指導員となりました。介護予防サポーター養成講座(4日制2回、参加者延べ139人)を開催しました。</p>	205,892,827
さわやかサポート(地域包括支援センター)の拡充と福祉ネットワークの強化	<p>さわやかサポートの設置場所や、よりわかりやすい施設案内の整備等について検討を行いました。検討にあたっては、大田区地域包括支援センター運営協議会からの提言を踏まえる等、区民等の意見の反映に努めました。</p> <p>さわやかサポート相談担当職員を対象に、研修を開催(3回、参加者延べ61人)したほか、地域力推進地区委員会への出席を促進し、地域との連携強化を図りました(16か所出席)。</p>	617,313,997
呑川緑道の整備	<p>水と緑の輝きや四季の変化を楽しめる散策路を整備するため、緑道整備工事(345m)及び整備設計(720m)を完了しました。また、末広橋児童公園拡張用地(161.07㎡)の取得を行いました。</p>	114,264,150
海辺の散策路整備	<p>臨海部の埋立地を結ぶ緑のネットワークの形成を図るため、現況調査(3回)を実施し、庁内で海辺の散策路の整備に向けた検討を行い、計画的な整備のための基礎資料を作成しました。</p>	4,830,000
(仮称)大田区緑の10か年計画の策定(緑の基本計画改定)	<p>航空写真の撮影・解析により緑の実態を把握する「緑の基礎調査」を実施したほか、現地踏査により樹林地、歴史・文化的資産等の街中の景観緑資源の実態を把握するため「地域力を活かしたまちの魅力発掘調査」を実施しました。</p> <p>区民・学識経験者等で構成する計画策定委員会(3回)のほか、庁内検討委員会(4回)・作業部会(10回)を開催し、計画策定に向けた検討を行いました。</p>	18,442,000

事業名	内容	決算額（円）
公園の整備	<p>田園調布せせらぎ公園は、既存受水槽撤去、広場整備工事を実施しました。</p> <p>東糀谷防災公園の一期工事として多目的広場、園路、駐車場、流れ、ビオトープ池、防火貯水槽等の整備工事を実施しました。また、二期工事分の実施設計委託を行いました。</p> <p>（仮称）中央五丁目緑地、（仮称）南馬込二丁目緑地は、基本計画、基本・実施設計委託を行いました。</p> <p>平張児童公園の改良工事（増設）の基本計画、基本・実施設計委託を行い、広場、スロープ、入口改修等の整備工事を実施しました。</p>	363,855,099
にぎわいを生み出すスポットづくり	<p>蒲田エリアは、黒澤商店、松竹キネマ等を蒲田モダンとして「かまた散歩」(100,000部)で、大森・羽田エリアは、大森から羽田に至る海岸線の変遷を「海岸線うつりかわり地図」(50,000部)で広く紹介し、新たな観光コースづくりに取り組みました。</p>	1,920,000
ものづくりのまち体験ツアーの実施	<p>区が、大田観光協会、首都大学東京と協働で、約30の企業にヒアリング方式で、工場の基本情報、技術や製品、地域との関係、産業観光・ものづくり観光に関する「大田区産業まちづくり基礎調査」を実施し、「おおた工業フェア」で調査結果を発表しました。</p>	1,500,420
シティセールスの実施	<p>区内観光のPRを目的に、大田観光協会が行う観光情報誌「いろはなおた」(上下巻各6,000部)の発行、いきいき大田写真コンクールにおける部門賞新設(空港・ものづくり・観光の3部門)及び作品展示(アプリコ)について助成を実施しました。また、品川・大田地域観光まちづくり推進協議会による「しながわ大田観光マップ」(100,000部)の作成や、つまみ食いウォーク(参加者約4,200人)、観光ガイド研修(12回、参加者延べ297人)の開催について助成を実施しました。</p> <p>おおた商い観光展、OTAふれあいフェスタ等のイベントで大田区の色々な魅力をPRしました。</p>	6,059,580

事業名	内容	決算額（円）
(仮称)多文化共生推進プランの策定・実施	多文化共生実態調査を実施し、外国人・日本人の区民の多文化共生に関する意識等を把握しました。調査を踏まえ、「多文化共生推進プラン庁内検討会」(3回)を開催し、素案を作成しました。区民説明会(参加者11人)、パブリックコメント(意見数25件)を実施し、平成22年3月に「大田区多文化共生推進プラン」を策定しました。	4,637,340
(仮称)多文化共生推進センターの整備	多文化共生推進の拠点として、「(仮称)多文化共生推進センター」が取り組む外国人生活相談や翻訳・通訳派遣、日本語教室や多文化交流イベント等について検討を行いました。センターの開設に向け、試行的に外国人生活相談窓口「大田区多言語情報センター」を消費者生活センター内に開設しました(相談総数148件)。	5,726,059
外国人のための日本語教室の充実	日本語教室を3期(10回/1期)開催しました(参加者延べ60人)。学習者のニーズに対応するため、2~3人の学習者に対して1人の学習支援ボランティアが担当し、日本語習熟度に即したきめ細かな授業を実施しました。	832,500
日本語指導教室の充実	小学生(70人)、中学生(18人)に、1人60時間の日本語初期指導を実施しました。通級による日本語指導教室は、蒲田小学校に加え、平成21年6月から新たに蒲田中学校にも開設して指導の充実を図りました。	21,460,332
身近な暮らし情報の発信	外国人に地域の情報や生活情報を提供する仕組みをつくるため、講習会・交流会の開催方針を策定し、日本語ボランティア養成講座(参加者延べ125人)や、異文化交流会(4回、参加者延べ84人)を開催しました。身近な生活情報や区の行政サービス等を英語・中国語・ハングル・日本語で提供する国際情報誌「Warbler」(4回、各3,500部)を発行しました。	210,451

事業名	内容	決算額（円）
馬込文士村資料の活用	郷土博物館の開館 30 周年を記念し、平成 21 年 11 月に常設展示をリニューアルオープンしました。これに合わせ、「馬込文士村展示コーナー」に資料を新たに展示しました。	1,736,280
(仮称)地域文化振興プランの策定・実施	区民の地域文化に対する意識を把握するため、個人・団体を対象に意識調査を実施しました。庁内検討会（2 回）を開催し、調査を踏まえた基本方針の素案を策定しました。地域文化活動を行っている区民・団体の代表者を対象に懇話会（参加者 11 人）を開催したほか、パブリックコメント（意見数 6 件）を実施しました。	1,186,500
地域力応援基金助成事業	公益性があり、広く社会貢献につながる活動を行う区民活動団体に、活動段階に応じた助成を実施しました。スタートアップ助成として 7 事業（応募 29 事業）に助成を実施しました。また、ステップアップ助成として 9 事業（応募 48 事業）、ジャンプアップ助成として 1 事業（応募 4 事業）を平成 22 年度助成実施事業として決定しました。	3,007,822
NPO・区民活動フォーラムの開催	区民の地域活動への参加を拡大し、区民活動団体と行政、企業間の連携を促進するため、NPO・区民活動フォーラムを開催しました。パネル展示や団体の活動に役立つ講座、区民活動団体提案型オリジナル講座等を開催しました（来場者延べ 1,391 人）。 NPO や区民活動団体による運営に段階的に移行するため、文化の森フェスタ実行委員会と連携するとともに、フォーラムで使用したパネルの展示等を行いました。	494,790
協働推進講師派遣事業	協働事業を広げるきっかけづくりとして、地域の中で学習会や講演会を行うことを目的に、自治会・町会や区民活動団体からの要望に基づき、NPO の主宰者を講師として派遣（7 事業）しました。	178,404

【参考】各調査の概要

大田区地域保健福祉計画・次世代育成支援行動計画実態調査

調査時期：平成 20 年 9 月

調査対象：区内居住の 0～6 歳の就学前児童の保護者 2,500 件発送（無作為抽出）
区内居住の小学 1～6 年生児童の保護者 2,000 件発送（無作為抽出）
区内居住の中学生・高校生 1,000 件発送（無作為抽出）

調査方法：郵送配布・郵送回収

回収数：就学前児童保護者調査 1,196 件（59.8%）、小学生保護者調査 1,105 件（55.3%）
中学生・高校生 396 件（39.6%）**大田区地域保健福祉計画実態調査**

調査時期：平成 20 年 7 月

調査対象：区内居住の 18～59 歳の区民 2,500 件発送
（要支援・要介護認定を受けていない方から無作為抽出）
区内居住の 60 歳以上の区民 2,000 件発送
（要支援・要介護認定を受けていない方から無作為抽出）

調査方法：郵送配布・郵送回収

回収数：18～59 歳の区民調査 967 件（38.7%）、60 歳以上の区民調査 1,283 件（64.2%）

みどりを守り・つくり・育てるためのアンケート集計結果

調査時期：平成 22 年 3～4 月

調査対象：大田区に居住する満 20 歳以上の男女 2,031 件発送（無作為抽出）

調査方法：郵送配布・郵送回収

回収数：595 件（29.3%）

大田区政に関する世論調査

調査時期：平成 20 年 7 月

調査対象：大田区に居住する満 20 歳以上の男女 2,000 人（層化二段無作為抽出）

調査方法：調査員による個別面接聴取

回収数：1,436 件（71.8%）

大田区の観光に関する意識調査

調査時期：平成 20 年 6～7 月

調査対象：大田区民調査 大田区に居住する 18 歳～79 歳の男女 5,000 件発送
（二段階無作為抽出）近隣からの来訪者調査 18 歳以上の近隣地域（品川区・目黒区・世田谷区・川崎市・横浜市）居住者で
大田区への来訪経験がある方、また、18 歳以上の大田区を除く首都圏（1 都 3
県）居住者で、大田区に通勤・通学している方 36,167 件発信

全国居住者調査 18 歳以上の全国居住者 3,300 件発信

調査方法：大田区民調査 郵送配布・郵送回収、近隣からの来訪者調査・全国居住者調査 インターネット調査

回収数：大田区民調査 1,097 件（21.9%）、近隣からの来訪者調査 1,257 件（3.5%）
全国居住者調査 635 件（19.2%）**大田区多文化共生実態調査**

調査時期：平成 21 年 10 月

調査対象：外国人の区民調査 大田区に居住する満 20 歳以上の男女 2,000 件発送
（外国人登録原票から無作為抽出）

日本人の区民調査 大田区に居住する満 20 歳以上の男女 1,000 件発送（無作為抽出）

調査方法：郵送配布・郵送回収

回収数：外国人の区民調査 676 件（33.8%）、日本人の区民調査 453 件（45.3%）

地域文化に関する区民・団体意識調査

調査時期：平成 21 年 7 月

調査対象：区民調査 大田区に居住する満 20 歳以上の男女 1,500 件発送（無作為抽出）
団体調査 区内の文化関係団体 500 件発送

調査方法：郵送配布・郵送回収

回収数：区民調査 696 件（46.4%）、団体調査 412 件（82.4%）

「大田区政に関する世論調査」(平成20年度実施)では、定住意向として、「これからも住みたい」という回答が(79.9%)に上っています。その理由として、「土地、建物を持っているから」(48.1%)や「仕事、通勤に都合が良いから」(40.4%)、「住環境が良いから」(37.9%)、「出身地だから」(30.0%)などとなっています。大田区への愛着や住環境への評価をさらに高めていく取組みが必要です。

生活環境の満足度としては、「暮らしやすさ」に満足している(12.6%)と「ほぼ満足している」(65.0%)を合わせると(77.6%)となっています。

その理由として、「通勤・通学の便」(76.7%)が最も高く、次いで「買い物の便」(73.6%)、「医者や病院の便」(70.4%)となっています。「緑の多さ」、「交通の安全性」、「災害時の安全性」、「治安のよさ」の分野においても高い評価を得られるような取組みが欠かせません。

新しい区政の進め方に対する意識では、「健全な財政運営」を重要とするご意見が(76.7%)で最も高く、次いで「プライバシー・個人情報の保護」(61.6%)、「円滑でスピーディな窓口処理」(61.5%)、「情報公開」(58.1%)などの順となっています。今後も、未来プランで掲げた財政計画を踏まえ、将来にわたり区財政の健全性を確保するとともに、区民の皆さまの負託に積極的に応える取組みを全庁あげて実現していきます。